

2024.3.26

田村まみ組織内参議院議員、予算委員会で質疑！

医薬品安定供給と薬価改定、 物流2024年問題への対策について 質疑を行いました。



武見厚生労働大臣（左）、田村まみ議員

<https://youtu.be/UwX6kL6DKSg>

田村まみ組織内参議院議員、発言抜粋

医薬品安定供給と薬価改定について



まみに聴かせてキャンペーンに寄せられた声

「毎年薬価改定を廃止してほしい。薬価を下げすぎたので品薄が続いています。」

「薬価が安く不採算になった医薬品の供給が不安定になり、医薬品流通に携わる全ての労働者が疲弊しています。」

「毎年の薬価改定により、医療業界の衰退に繋がっています。」

「供給不安の解決をはじめ、医薬品産業で働く組合員が安心して働ける環境を整備してほしい。」

- 市場価格を反映した薬価改定という財務省による歳出改革の改革努力の結果、毎年の薬価引き下げによる製薬産業全体の毀損により、医薬品の供給不安が生じていることへの財務大臣への認識を問いつつ、毎年引き下げありきの薬価改定に問題があり、供給不足が続いていると訴えました。

- 医療用医薬品は公定価格のため、原材料価格やエネルギーコストのみならず、賃上げ原資も含めて、適切な価格転嫁が制度上困難な中、度重なる薬価引き下げが、創薬原資、設備投資原資や賃上げ原資の確保を困難にしていること、ならびに平成28年に4大臣合意で決定した薬価制度の抜本改革に向けた基本方針を漫然と続けていることの問題を指摘しました。
- “価格乖離の大きな品目”の基準（薬価調査に基づく平均乖離率の0.625倍）について、今まで一度も見直し議論がされておらず、状況変化に応じた対応ができていないことは、4大臣合意の基本方針を逸脱していると指摘しました。
- 医薬品の流通改善や産業構造の見直しが終わるまでは中間年改定は廃止すべきであり、また価格引き下げありきの薬価制度の抜本の見直しを早急を実施することにより、医薬品産業の健全化を図るよう求めました。

<https://youtu.be/hWKhhZ1QAK>

田村まみ組織内参議院議員、発言抜粋

物流2024年問題への対策について



まみに聴かせてキャンペーンに寄せられた声

「物流2024年問題は単に運転手不足の問題ではなく、荷役や受け入れ現場、特にスーパーでは荷卸、整理保管品出しは現場従業者が担っており、総合的視野が必要です。」

「物流の2024年問題の影響で、トラックへの製品の引渡し時間が早まり対策に追われています。物流業者への支援が製造業、小売業への支援につながると思います。」

「物流効率化法はドライバーの低賃金を解決しません（残業規制で収入が減り、基本給は上がりません）。ドライバーの賃金や待遇の改善に注力すべきです。」

- 大手事業者を中心に取り組み推進を促す一方で、例えばパレット化ひとつをとっても、その取引先の中堅・中小企業も含めたサプライチェーン全体で体制を整えないと物流効率化は実現しないことから、中堅・中小企業への支援強化の必要性を訴えました。
- 物流産業は、他産業での機能別（例：生産、製造、販売）と比較して、類似の事業を行う事業者間で委託・受託し合う特殊な多重下請け構造にあることから、働き方改革の推進と並行して、多重下請けの産業構造を解消していくための政策の検討と実行を行うことにより、物が届く仕組みと適正な運賃の実現を求めました。